

8 その他のハイリスク者

本手引きでは、自殺ハイリスク者支援について、「生活困窮者」、「アルコール／薬物乱用・依存症」、「多重債務・経済問題」、「DV 被害」、「幼少期の過酷体験（不適切な養育・児童虐待）」、「自殺未遂」、「罪を犯した障がい者」の7つの課題に絞って支援のポイントを示してきた。

しかしながら、これらは、自殺のリスクを高める要因の一部であり、これまでの研究結果や実践報告において、自殺リスクを高める要因として、下記に示したものが挙げられている。

これらの要因についても、本手引きへの掲載について協議がなされたが、記載内容について十分な議論ができず結論を出せなかったため、次年度以降に持ち越すこととなった。

【次年度以降に持ち越した課題】

- 精神疾患・精神障がい
- 重篤な身体疾患・身体障がい
- 単身高齢者
- 性的マイノリティ
- エスニックマイノリティ

－ 参考資料 －

◆ 単身高齢者

【知っておくべき基本事項】

- ・ 単身の低所得高齢者は増加しており、今後も増加する。
- ・ 単身高齢者が要介護となった場合には、介護者がいないため在宅生活の継続が困難になり、居所が転々としてしまうことがある。
- ・ 認知症がある場合には、不安や混乱が強くなることもある。

【初期対応として大事なこと】

- ・ 介護保険サービスにつなげると同時に、孤立しないための支援が必要である。
- ・ 企死念慮ある場合など、緊急的な避難場所として宿泊所の利用が有効なことがある。

【留意すべきこと】

- ・ 慢性的な痛みや呼吸苦、めまいなど、日常的な状が本人にとって深刻な苦痛となっていることがある。
- ・ 救急搬送の要請が増えたときは、SOSの可能性がある。
- ・ 老いの不安や不眠などから、飲酒量が増える場合がある。

【主な連携機関】

- ・ 福祉事務所・地域包括支援センター・市区町村の高齢者担当課
- ・ 警察(自殺のリスクが高い場合など)

－ 参考資料 －

◆ 性的マイノリティ

【知っておくべき基本事項】

- ・ 幼少期から、周囲との違和感、自分らしくあることを否定されてきた経験を積み重ねていることが多い。
- ・ 戸籍上の性別変更の条件をクリアすることは容易ではなく、選挙や住民票など、公的な手続き(本人確認)の場面でも嫌な思いをすることが少なくない。
- ・ 医療などとの連携も必要だが、本当に安心して生活していくためには、地域で孤立しないための関係性が重要である。

【初期対応として大事なこと】

- ・ 性に関する悩みは相談しにくく、周囲に隠していることも多いため、性的マイノリティを理由に解除されない場所であることや、差別されないことを保証できる理解や環境づくりが重要である。

【留意すべきこと】

- ・ 間接的に傷つけてしまう支援者側の言動に注意する。
- ・ 相談申込書の性別欄の記入などで、悩むことがある。
- ・ 自分自身の声を聴くことが辛く話せなくなる人もいるため、状況によっては筆談にするなどの工夫が必要となる。

【主な連携機関】

- ・ 精神科クリニックなどの医療機関・自助グループ、当事者団体